

Ⅳ 研究計画概要
及び
専攻別教育課程表

ライフデザイン学研究科

研究指導概要

博士前期課程・修士課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・論文題目に合わせ、基礎科目、専門科目の履修指導を受ける。
- ・研究計画を立案し、調査、実験等の研究方法論を修得する。

2 セメスタ

- ・自らの問題意識に基づいて研究関連分野の最近の研究活動の状況等のレビュー作成の指導を受ける。
- ・到達目標を踏まえた達成状況に応じて、研究計画の確認や見直しを行う。
- ・研究テーマに関連した研究課題や研究方法についてプレゼンテーションと討論を経験させ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。

3 セメスタ

- ・確定した研究テーマに基づいて調査、文献研究、実験を行い、研究方法の妥当性を検証しつつ、研究成果のとりまとめを行う。
- ・国内外の学会発表や論文投稿等へ積極的に取り組めるよう指導を受ける。

4 セメスタ

- ・修士論文の骨子について検討する。
- ・研究精度を高め、修士学位論文にまとめる。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

博士前期課程および修士課程2年生で、修士論文を提出する予定の者は、各専攻またはコースで定められた中間報告会および最終試験・修士論文発表会等で論文要旨をまとめて報告しなければならない。中間報告会および修士論文発表会等の開催時期や、報告の形式および配付資料の準備等、報告会の詳細は入学時ガイダンスまたは授業期間中に周知される。

博士前期課程および修士課程在籍者は、学年等の如何を問わず報告を聞くことが可能なので、積極的に参加することが望ましい。

3. 特定課題研究論文等

生活支援学専攻、健康スポーツ学専攻および人間環境デザイン専攻では、修士論文の提出にかえて、特定課題研究論文または特定課題研究（修士設計）の提出を認めている。特定課題研究論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文をいい、特定課題研究（修士設計）とは、特定の課題について調査・研究した成果物としての設計図書・模型をいう。特定課題研究論文または特定課題研究（修士設計）の提出を希望するものは、以下の要件に沿って提出すること。各専攻の要件の詳細は入学ガイダンス時に説明される。

・特定課題研究論文

1. 原則論文を提出するセメスタ終了時に本大学院在学期間2年以上を満たし（短期修了制度に該当する場合を除く）、30単位以上を修得、または修得見込みであること。
2. 特定課題研究論文は、12,000字以上のものを3本提出すること。
3. 特定課題研究論文の提出は、原則として入学時に選択すること。

・特定課題研究（修士設計）

〔人間環境デザイン専攻〕

1. 特定課題研究（修士設計）を提出するセメスタ終了時に本大学院在学期間2年以上を満たし（短期修了制度に該当する場合を除く）、30単位以上を修得、または修得見込みであり、かつ必要な研究指導を受けたこと。
2. 各専攻またはコースで定められた中間報告会で特定課題研究（修士設計）要旨をまとめて報告したこと。
3. 特定課題研究（修士設計）の提出は、原則として入学時に選択すること。
4. 特定課題研究（修士設計）の図書様式は、下記のとおりとする。
①提出はA4またはA3サイズとする。

②内容

- ・調査報告あるいは設計趣意書（約40,000字～60,000字程度）
- ・図面もしくはそれに相当する表現：10枚～15枚程度（課題内容に合わせて書式は指示する）

③模型等の提出は認めるが、修士設計図書一式で表現が完結していること。

博士後期課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・論文題目に合わせ、基礎科目、専門科目の履修指導を受ける。
- ・研究計画を立案し、調査、実験等の研究方法論を修得する。

2 セメスタ

- ・自らの問題意識に基づいて研究関連分野の最近の研究活動の状況等のレビュー作成の指導を受ける。
- ・到達目標を踏まえた達成状況に応じて、研究計画の確認や見直しを行う。
- ・研究テーマに関連した研究課題や研究方法についてプレゼンテーションと討論を経験し、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。

3 セメスタ

- ・確定した研究テーマに基づいて調査、文献研究、実験を行い、研究方法の妥当性を検証する。
- ・国内外の学会発表や論文投稿等へ積極的に取り組めるよう指導を受ける。

4 セメスタ

- ・収集した研究データ（量的、質的、文献資料）の分析を行い、研究結果を整理する。

5 セメスタ

- ・研究結果について、多角的な考察を展開し、博士論文の骨子について検討する。
- ・研究精度を高め、博士学位論文にまとめる。

6 セメスタ

- ・論文についての精査を行って、推敲を繰り返した上で提出する。
- ・口述試験への準備を開始する。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

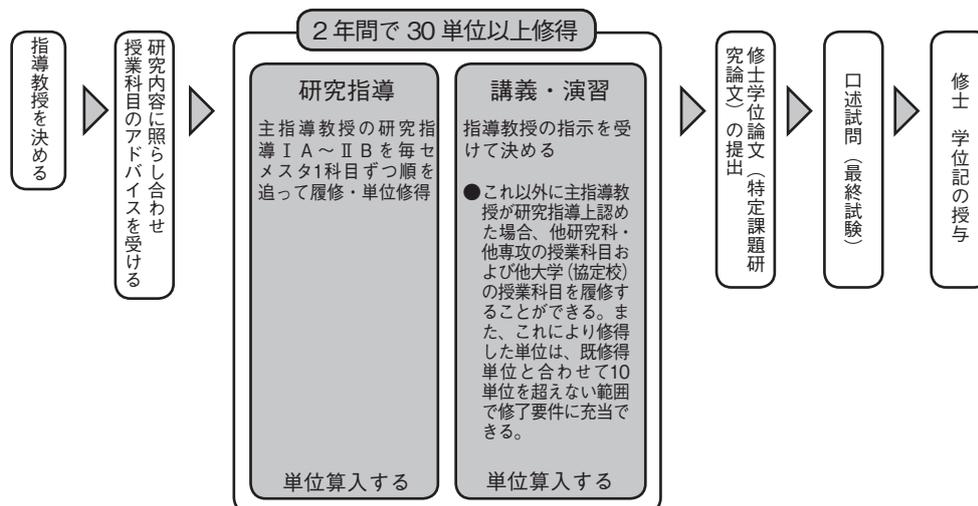
中間報告会での報告が博士論文の提出要件となっているため、在学者は全員、必ず現在の状況に即して各専攻で定められた中間報告会で報告する。中間報告会の開催時期や、報告の形式および配付資料の準備等、報告会に関わる詳細は入学時ガイダンスまたは授業期間中に周知される。

審査終了時までに博士学位論文提出者による公聴会が開催される。

生活支援学専攻

修士課程

履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

※本専攻所属学生は、2021年4月より赤羽台キャンパス(東京都北区)で修学する予定です。

生活支援学専攻

修士課程

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	職名	担当教員	備考
共通	春	(必修) ライフデザイン学基礎特論Ⅰ	ライフデザイン学研究入門	講義	2	SWS601	1		渡辺、的場、高山(静) (以上代表者)	両コースの必修科目 (健康スポーツ専攻との合同開講)
	秋	ライフデザイン学基礎特論Ⅱ	生活支援学基礎研究	講義	2	SWS602	1・2	教授	是枝 喜代治	
	春	ライフデザイン学実践研究A		演習	2	CIV601	1・2		是枝、稲沢、本名、吉浦、吉田、渡辺、嶋崎、山本、八木、的場	
	秋	ライフデザイン学実践研究B		演習	2	CIV602	1・2		是枝、稲沢、本名、吉浦、吉田、渡辺、嶋崎、山本、八木、的場	
	春・秋	海外社会調査演習Ⅰ		演習	2	ARS601	1・2		木内 明(兼任)、八木裕子	集中講義
	春・秋	海外社会調査演習Ⅱ		演習	2	ARS602	1・2		木内 明(兼任)、八木裕子	集中講義
高齢者・障害者支援学コース	春	高齢者・障害者支援学特論ⅠA	対人支援原理論	講義	2	SWS603	1・2	教授	稲 沢 公 一	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅠB	対人支援原理論	講義	2	SWS604	1・2	教授	稲 沢 公 一	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅡA	障がい児・者支援論	講義	2	SWS605	1・2	教授	是 枝 喜 代 治	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅡB	障がい児・者支援論	講義	2	SWS606	1・2	教授	是 枝 喜 代 治	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅢA	精神保健論	講義	2	SWS607	1・2	教授	吉 田 光 爾	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅢB	精神保健論	講義	2	SWS608	1・2	教授	吉 田 光 爾	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅣA	介護福祉論	講義	2	SWS609	1・2	教授	渡 辺 裕 美	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅣB	介護福祉論	講義	2	SWS610	1・2	教授	渡 辺 裕 美	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅤA	データ収集と分析基礎	講義	2	SWS611	1・2	客員教授	本 名 靖	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅤB	データ収集と分析基礎	講義	2	SWS612	1・2	客員教授	本 名 靖	
	秋	高齢者・障害者支援学特論Ⅵ	ソーシャルワークと障害者権利擁護論	講義	2	SWS613	1・2	教授(兼任)	高 山 直 樹	
	春	高齢者・障害者支援学特論Ⅶ	死・ターミナルケアの社会学	講義	2	SOC601	1・2	非常勤講師(兼任)	井 上 治 代	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅧA	高齢者ケアワーク論	講義	2	SWS614	1・2	准教授	八 木 裕 子	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅧB	高齢者ケアワーク論	講義	2	SWS615	1・2	准教授	八 木 裕 子	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅨA	保健医療福祉調査論	講義	2	SWS616	1・2	准教授	的 場 智 子	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅨB	保健医療福祉調査論	講義	2	SWS617	1・2	准教授	的 場 智 子	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅩA	医療福祉論	講義	2	SWS618	1・2	教授	吉 浦 輪	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅩB	医療福祉論	講義	2	SWS619	1・2	教授	吉 浦 輪	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅠA	多職種連携協働論	講義	2	SWS620	1・2	教授	吉 浦 輪	集中講義
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅠB	多職種連携協働論	講義	2	SWS621	1・2	教授	吉 浦 輪	集中講義
春	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅡA	地域福祉論	講義	2	SWS622	1・2	教授	山 本 美 香		
秋	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅡB	地域福祉論	講義	2	SWS623	1・2	教授	山 本 美 香		
子ども支援学コース	春	子ども支援学特論ⅠA	子ども心理発達支援論	講義	2	CHS601	1・2	教授	中 原 美 恵	
	秋	子ども支援学特論ⅠB	子ども心理発達支援論	講義	2	CHS602	1・2	教授	中 原 美 恵	
	春	子ども支援学特論ⅡA	子どもの心を育てる児童文学	講義	2	CHS603	1・2	教授	高 橋 直 美	
	秋	子ども支援学特論ⅡB	子どもの心を育てる児童文学	講義	2	CHS604	1・2	教授	高 橋 直 美	
	春	子ども支援学特論ⅢA	健康保育論	講義	2	CHS605	1・2	教授	嶋 崎 博 嗣	
	秋	子ども支援学特論ⅢB	健康保育論	講義	2	CHS606	1・2	教授	嶋 崎 博 嗣	
	春	子ども支援学特論ⅣA	子ども家庭福祉論	講義	2	CHS607	1・2	教授	南 野 奈 津 子	
	秋	子ども支援学特論ⅣB	子ども家庭福祉論	講義	2	CHS608	1・2	教授	南 野 奈 津 子	
	春	子ども支援学特論ⅤA	保 育 学	講義	2	CHS609	1・2	教授	高 山 静 子	
	秋	子ども支援学特論ⅤB	保 育 学	講義	2	CHS610	1・2	教授	高 山 静 子	

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	職名	担当教員	備考
子ども支援学コース	春	子ども支援学特論ⅥA	多文化共生保育論	講義	2	CHS611	1・2	教授	内田千春	
	秋	子ども支援学特論ⅥB	多文化共生保育論	講義	2	CHS612	1・2	教授	内田千春	
	春	子ども支援学特論ⅦA	幼児教育論	講義	2	CHS613	1・2	准教授	高橋健介	
	秋	子ども支援学特論ⅦB	幼児教育論	講義	2	CHS614	1・2	准教授	高橋健介	
	春	子ども支援学特論ⅧA	子どもの権利論	講義	2	CHS615	1・2	准教授	内田塔子	
	秋	子ども支援学特論ⅧB	子どもの権利論	講義	2	CHS616	1・2	准教授	内田塔子	
	春	子ども支援学特論ⅨA	心身発達支援論	講義	2	CHS617	1・2	教授	杉田記代子	
	秋	子ども支援学特論ⅨB	心身発達支援論	講義	2	CHS618	1・2	教授	杉田記代子	
	春	子ども支援学特論ⅩA	子どもソーシャルワーク論	講義	2	CHS619	1・2	教授	南野奈津子	
	秋	子ども支援学特論ⅩB	子どもソーシャルワーク論	講義	2	CHS620	1・2	教授	南野奈津子	
	春	子ども支援学特論ⅩI A	保護者支援論	講義	2	CHS621	1・2	非常勤講師	小川晶	
	秋	子ども支援学特論ⅩI B	保護者支援論	講義	2	CHS622	1・2	非常勤講師	小川晶	
春	子ども支援学特論ⅩII	国際比較子ども支援計画論	講義	2	CHS623	1・2	非常勤講師	小野道子	集中講義	

研究指導

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	職名	担当教員	備考
高齢・障害支援学コース	春・秋	高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA		演習	2	REG601	1		是枝、稲沢、本名、吉浦、吉田、渡辺、山本、八木、的場	1セメスタ在籍者
	春・秋	高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB		演習	2	REG602	1			2セメスタ在籍者
	春・秋	高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA		演習	2	REG603	2			3セメスタ在籍者
	春・秋	高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB		演習	2	REG604	2			4セメスタ在籍者
子ども支援学コース	春・秋	子ども支援学研究指導ⅠA		演習	2	REG605	1		高橋(直)、中原、内田(千)、杉田、嶋崎、南野、高山(静)、高橋(健)、内田(塔)	1セメスタ在籍者
	春・秋	子ども支援学研究指導ⅠB		演習	2	REG606	1			2セメスタ在籍者
	春・秋	子ども支援学研究指導ⅡA		演習	2	REG607	2			3セメスタ在籍者
	春・秋	子ども支援学研究指導ⅡB		演習	2	REG608	2			4セメスタ在籍者

注:春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1. 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
2. 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を、毎セメスタ1科目ずつ順を追って履修・単位修得すること。
3. 共通科目「ライフデザイン学基礎特論Ⅰ」を履修・単位修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名(特に主指導教授から指示があった場合は、2名)とし、主指導教授は、「研究指導ⅠA～ⅡB」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 同一科目を2回以上履修・単位修得することはできない。主指導教授の科目であっても1回のみ履修・単位修得できるものとする。ただし、原級生および長期履修学生は、延長したセメスタ(5セメスタ以上)において、主指導教授の「研究指導ⅡB」をその都度履修すること。なお、この場合であっても、同科目において修了要件に充当するのは2単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる(同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない)。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位(既修得単位)と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5. 本専攻においては、特定の課題についての研究成果報告書の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。この「特定課題研究論文」の選択は、原則として入学時にのみ可能である。これを選択する場合は、予め窓口申し出ること。

※「特定課題研究論文」について

研究分野によっては、計画をもって「特定課題研究論文」とすることができる。

予め指導教授と相談のうえ窓口申し出ること。

6. ライフデザイン学実践研究 A・B について

- ・本科目は、院生が各自の専門分野で社会实践（調査・実習・インターンシップを含む）を行うと同時に、学内で各担当教員による学術的指導を受けることによって、実践現場と連携した研究成果の創出を目指すものである。社会实践の成果は、その合計時間が45時間を超えた場合、実践先からの証明を得たうえで提出できるレポートによって評価する。成績評価にあたっては、このレポートが一定の水準を満たしたとき、学内での指導時間とレポート作成時間を含め全体で90時間程度であることを前提に、院生の主指導教授は2単位の演習科目を履修したものと認定し、成績を評価する。
- ・実践研究 A は春学期、実践研究 B は秋学期に配置し、在学期間中に各1回履修・単位修得することができる。
- ・本科目は、ToyoNet-G による履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、実践予定学期の履修登録期間中に、朝霞事務課窓口で配布する「ライフデザイン学実践研究履修届出用紙」に記入して提出すること。

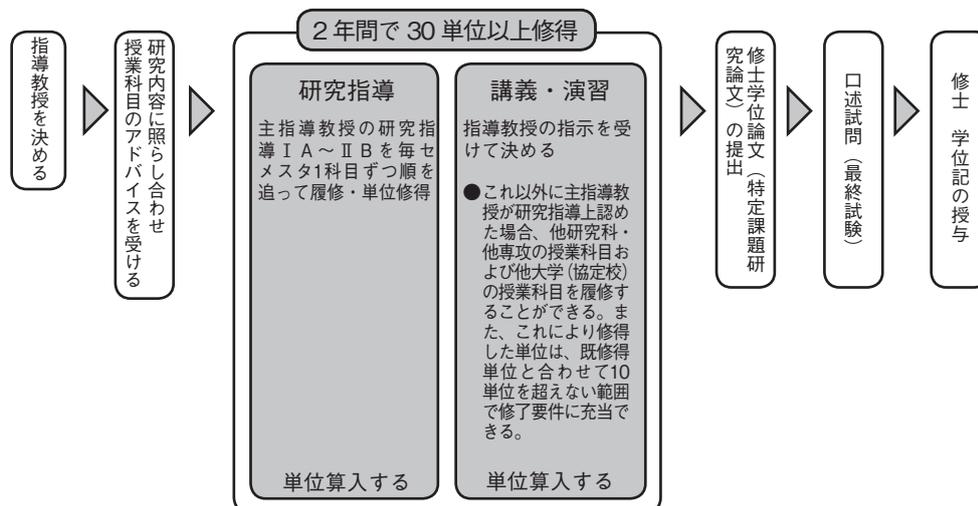
7. 海外社会調査演習 I・II について

- ・本科目は、健康スポーツ学専攻と合同開講する。諸外国に実際に赴き、当該社会における健康・スポーツへの取組や生活支援の現場について、フィールドワークや調査、実習等を行う。フィールドワーク等の成果は、院生各自の課題設定に沿ってレポートにまとめ、報告する。成績評価にあたっては、このレポートが一定の水準を満たしたとき、事前事後学習と報告書作成時間を含め全体で90時間程度であることを前提に、担当教員は2単位の演習科目を履修したものと認定し、成績を評価する。
- ・本科目は、原則、休暇中に現地にて実践した成果を次学期に評価し単位認定するものとし、在学期間中、IとIIそれぞれ1回ずつ履修・単位修得することができる。
- ・IとIIはそれぞれ個別に履修することが可能であるが、教育効果上、IとIIを順に履修することを推奨する。ただし、2科目を同時に履修することはできない。
- ・本科目は、ToyoNet-G による履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、各学期の履修登録期間中に、朝霞事務課窓口で配布する「海外社会調査演習履修届出用紙」に記入して提出すること。

健康スポーツ学専攻

修士課程

履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。
※本専攻所属学生は、2021年4月より赤羽台キャンパス(東京都北区)で修学する予定です。

健康スポーツ学専攻

修士課程

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	職名	担当教員	備考	
共通科目	春	(必修) ライフデザイン学基礎特論	ライフデザイン学研究入門	講義	2	SWS601	1		鈴木(哲)、 渡辺(兼担) (以上代表者)	必修科目 (生活支援学専攻との合同開講)	
	春・秋	海外社会調査演習Ⅰ		演習	2	ARS601	1・2		木内 明、八木裕子(兼担)	集中講義	
	春・秋	海外社会調査演習Ⅱ		演習	2	ARS602	1・2		木内 明、八木裕子(兼担)	集中講義	
講義科目	春	健康スポーツ学特論ⅠA	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS601	1・2	教授	齊藤 恭平	隔年開講(2020年度休講)	
	秋	健康スポーツ学特論ⅠB	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS602	1・2	教授	齊藤 恭平	隔年開講(2020年度休講)	
	春	健康スポーツ学特論ⅡA	健康増進論	講義	2	AHS603	1・2	教授	神野 宏司	隔年開講(2020年度休講)	
	秋	健康スポーツ学特論ⅡB	健康増進論	講義	2	AHS604	1・2	教授	神野 宏司	隔年開講(2020年度休講)	
	春	健康スポーツ学特論ⅢA	解剖・組織学：基礎	講義	2	GEA601	1・2	教授	大迫 正文	隔年開講(2020年度休講)	
	秋	健康スポーツ学特論ⅢB	解剖・組織学：応用	講義	2	GEA602	1・2	教授	大迫 正文	隔年開講(2020年度休講)	
	春	健康スポーツ学特論ⅣA	運動生理学：基礎	講義	2	ENP601	1・2	教授	鈴木 哲郎	隔年開講(2020年度休講)	
	秋	健康スポーツ学特論ⅣB	運動生理学：応用	講義	2	ENP602	1・2	教授	鈴木 哲郎	隔年開講(2020年度休講)	
	春	健康スポーツ学特論ⅤA	運動制御論	講義	2	GPH601	1・2	教授	古川 覚	隔年開講(2020年度休講)	
	秋	健康スポーツ学特論ⅤB	運動制御論	講義	2	GPH602	1・2	教授	古川 覚	隔年開講(2020年度休講)	
	春	健康スポーツ学特論ⅥA	コンディショニング論	講義	2	AHS605	1・2	教授	岩本 紗由美	隔年開講(2020年度休講)	
	秋	健康スポーツ学特論ⅥB	コンディショニング論	講義	2	AHS606	1・2	教授	岩本 紗由美	隔年開講(2020年度休講)	
	—	健康スポーツ学特論ⅦA	障がい者・アグアティッド健康スポーツ指導論	講義	2	SPS601	1・2			本年度休講(隔年開講)	
	—	健康スポーツ学特論ⅦB	障がい者・アグアティッド健康スポーツ指導論	講義	2	SPS602	1・2			本年度休講(隔年開講)	
	—	健康スポーツ学特論ⅧA	エアロビクス論	講義	2	DMB601	1・2			本年度休講(隔年開講)	
	—	健康スポーツ学特論ⅧB	エアロビクス論	講義	2	DMB602	1・2			本年度休講(隔年開講)	
	春	健康スポーツ学特論ⅨA	体育科教育学	講義	2	ESS601	1・2	准教授	平野 智之		
	秋	健康スポーツ学特論ⅨB	体育科教育学	講義	2	ESS602	1・2	准教授	平野 智之		
	春	健康スポーツ学特論ⅩA	学校保健論	講義	2	EDU601	1・2	准教授	内山 有子		
	秋	健康スポーツ学特論ⅩB	学校保健論	講義	2	EDU602	1・2	准教授	内山 有子		
	春	健康スポーツ学特論ⅩⅠA	健康スポーツ民族論	講義	2	SPS603	1・2	准教授	木内 明		
	秋	健康スポーツ学特論ⅩⅠB	健康スポーツ民族論	講義	2	SPS604	1・2	准教授	木内 明		
	春	健康スポーツ学特論ⅩⅡA	情報社会論	講義	2	LIH601	1・2	教授	浅間 正通		
	秋	健康スポーツ学特論ⅩⅡB	情報社会論	講義	2	LIH602	1・2	教授	浅間 正通		
	春	健康スポーツ学特論ⅩⅢA	統計学：基礎	講義	2	STS601	1・2	非常勤講師	片山 佳代子		
	秋	健康スポーツ学特論ⅩⅢB	統計学：応用	講義	2	STS602	1・2	非常勤講師	片山 佳代子		
	春	健康スポーツ学特論ⅩⅣA	調査・研究法：基礎	講義	2	STS603	1・2	非常勤講師	片山 佳代子		
	秋	健康スポーツ学特論ⅩⅣB	調査・研究法：応用	講義	2	STS604	1・2	非常勤講師	片山 佳代子		
	演習科目	—	健康スポーツ学演習ⅠA	ヘルスプロモーション論演習	演習	2	AHS601	1・2			本年度休講(隔年開講)
		—	健康スポーツ学演習ⅠB	ヘルスプロモーション論演習	演習	2	AHS602	1・2			本年度休講(隔年開講)
		—	健康スポーツ学演習ⅡA	健康増進論演習	演習	2	AHS603	1・2			本年度休講(隔年開講)
		—	健康スポーツ学演習ⅡB	健康増進論演習	演習	2	AHS604	1・2			本年度休講(隔年開講)
—		健康スポーツ学演習ⅢA	解剖・組織学演習：基礎	演習	2	GEA601	1・2			本年度休講(隔年開講)	
—		健康スポーツ学演習ⅢB	解剖・組織学演習：発展	演習	2	GEA602	1・2			本年度休講(隔年開講)	
—		健康スポーツ学演習ⅣA	運動生理学演習：基礎	演習	2	ENP601	1・2			本年度休講(隔年開講)	
—		健康スポーツ学演習ⅣB	運動生理学演習：応用	演習	2	ENP602	1・2			本年度休講(隔年開講)	

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	職名	担当教員	備考
演習科目	—	健康スポーツ学演習ⅤA	運動制御論演習	演習	2	GPH601	1・2			本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅤB	運動制御論演習	演習	2	GPH602	1・2			本年度休講(隔年開講)
	春	健康スポーツ学演習ⅥA	人体構造論演習:基礎	演習	2	GEA603	1・2	非常勤講師	寺島達夫	
	秋	健康スポーツ学演習ⅥB	人体構造論演習:応用	演習	2	GEA604	1・2	非常勤講師	寺島達夫	
	—	健康スポーツ学演習ⅦA	コンディショニング論演習	演習	2	AHS605	1・2			本年度休講(隔年開講)
	—	健康スポーツ学演習ⅦB	コンディショニング論演習	演習	2	AHS606	1・2			本年度休講(隔年開講)
	春	健康スポーツ学演習ⅧA	障がい者・アスリートが健康スポーツ指導論演習	演習	2	SPS601	1・2	准教授	金子元彦	隔年開講(2020年度休講)
	秋	健康スポーツ学演習ⅧB	障がい者・アスリートが健康スポーツ指導論演習	演習	2	SPS602	1・2	准教授	金子元彦	隔年開講(2020年度休講)
	春	健康スポーツ学総合演習ⅠA	健康スポーツ学Collaboration	演習	2	AHS607	1・2		専任教員全員	
	秋	健康スポーツ学総合演習ⅠB	健康スポーツ学Collaboration	演習	2	AHS608	1・2		神野、鈴木(哲)、平野、金子	
	春	健康スポーツ学総合演習ⅡA	健康・運動・食のCollaboration	演習	2	AHS609	1・2		専任教員全員	
	秋	健康スポーツ学総合演習ⅡB	健康・運動・食のCollaboration	演習	2	AHS610	1・2		大迫、鈴木(哲)、古川、齊藤、神野、岩本	
	—	国際健康スポーツ学研究ⅠA	アジアの健康スポーツ学研究	演習	2	SPS603	1・2			本年度休講(隔年開講)
	—	国際健康スポーツ学研究ⅠB	アジアの健康スポーツ学研究	演習	2	SPS604	1・2			本年度休講(隔年開講)
	秋	国際健康スポーツ学研究Ⅱ	欧米の健康スポーツ学研究	演習	2	SPS605	1・2		岩本紗由美、木内明	
	春	国際健康スポーツ学研究ⅢA	英語論文読解・英文論文作成法	演習	2	FLE601	1・2	教授	浅間正通	
秋	国際健康スポーツ学研究ⅢB	英語論文読解・英文論文作成法	演習	2	FLE602	1・2	教授	浅間正通		

研究指導

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	職名	担当教員	備考
研究指導科目	春・秋	健康スポーツ学研究指導ⅠA		演習	2	REG601	1		大迫、古川、神野、齊藤、浅間、鈴木(哲)、岩本、金子、平野、木内、内山	1セメスタ在籍者
	春・秋	健康スポーツ学研究指導ⅠB		演習	2	REG602	1			2セメスタ在籍者
	春・秋	健康スポーツ学研究指導ⅡA		演習	2	REG603	2			3セメスタ在籍者
	春・秋	健康スポーツ学研究指導ⅡB		演習	2	REG604	2			4セメスタ在籍者

注:春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1. 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
2. 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を、毎セメスタ1科目ずつ順を追って履修・単位修得すること。
3. 共通科目「ライフデザイン学基礎特論」を履修・単位修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名(特に主指導教授から指示があった場合は、2名)とし、主指導教授は、「健康スポーツ学研究指導ⅠA～ⅡB」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 同一科目を2回以上履修・単位修得することはできない。主指導教授の科目であっても1回のみ履修・単位修得できるものとする。ただし、原級生および長期履修学生は、延長したセメスタ(5セメスタ以上)において、主指導教授の「健康スポーツ学研究指導ⅡB」をその都度履修すること。なお、この場合であっても、同科目において修了要件に充当するのは2単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる(同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない)。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位(既修得単位)と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5. 本専攻においては、特定の課題についての研究成果報告書の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。この「特定課題研究論文」の選択は、原則として入学時にのみ可能である。これを選択する場合は、予め窓口に出示すること。

※「特定課題研究論文」について

研究分野によっては、計画をもって「特定課題研究論文」とすることができる。

予め指導教授と相談のうえ窓口に申し出ること。

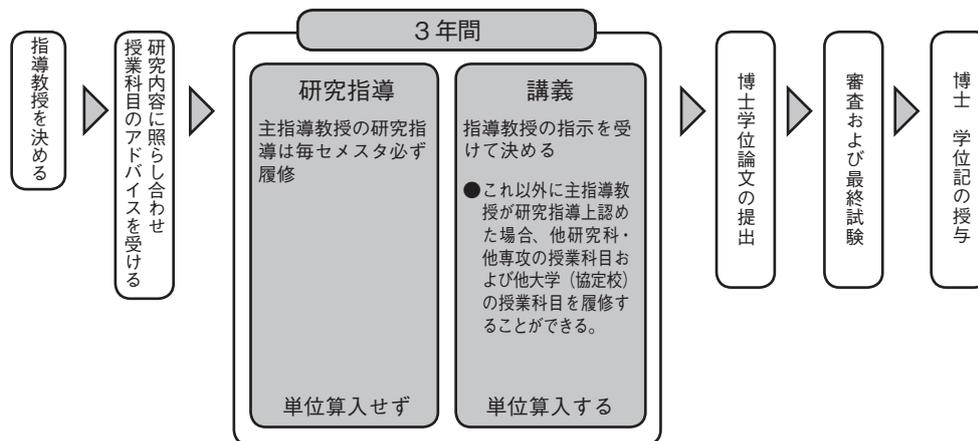
6. 海外社会調査演習 I・II について

- ・本科目は、生活支援学専攻と合同開講する。諸外国に実際に赴き、当該社会における健康・スポーツへの取組や生活支援の現場について、フィールドワークや調査、実習等を行う。フィールドワーク等の成果は、院生各自の課題設定に沿ってレポートにまとめ、報告する。成績評価にあたっては、このレポートが一定の水準を満たしたとき、事前事後学習と報告書作成時間を含め全体で90時間程度であることを前提に、担当教員は2単位の演習科目を履修したものと認定し、成績を評価する。
- ・本科目は、原則、休暇中に現地にて実践した成果を次学期に評価し単位認定するものとし、在学期間中、IとIIそれぞれ1回ずつ履修・単位修得することができる。
- ・IとIIはそれぞれ個別に履修することが可能であるが、教育効果上、IとIIを順に履修することを推奨する。ただし、2科目を同時に履修することはできない。
- ・本科目は、ToyoNet-Gによる履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、各学期の履修登録期間中に、朝霞事務課窓口で配布する「海外社会調査演習履修届出用紙」に記入して提出すること。

ヒューマンライフ学専攻

後期課程

履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

※本専攻所属学生は、2021年4月より赤羽台キャンパス(東京都北区)で修学する予定です。

ヒューマンライフ学専攻

博士後期課程

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	職名	担当教員	備考
共通科目	春	英語プレゼンテーション演習		演習	2	SEM701	教授(兼任)	浅間 正通	
	春	生活支援学研究ⅠA	障害者福祉論	講義	2	SWS701	教授(兼任)	是枝 喜代治	
生活支援学分野	秋	生活支援学研究ⅠB	障害者福祉論	講義	2	SWS702	教授(兼任)	是枝 喜代治	
	春	生活支援学研究ⅡA	精神保健論	講義	2	SWS703	教授(兼任)	吉田 光爾	
	秋	生活支援学研究ⅡB	精神保健論	講義	2	SWS704	教授(兼任)	吉田 光爾	
	春	生活支援学研究ⅢA	介護福祉論	講義	2	SWS705	教授(兼任)	渡辺 裕美	
	秋	生活支援学研究ⅢB	介護福祉論	講義	2	SWS706	教授(兼任)	渡辺 裕美	
	春	生活支援学研究ⅣA	医療福祉論	講義	2	SWS707	教授(兼任)	吉浦 輪	
	秋	生活支援学研究ⅣB	医療福祉論	講義	2	SWS708	教授(兼任)	吉浦 輪	
	春	生活支援学研究ⅤA	対人支援原理論	講義	2	SWS709	教授(兼任)	稲沢 公一	
	秋	生活支援学研究ⅤB	対人支援原理論	講義	2	SWS710	教授(兼任)	稲沢 公一	
	春	生活支援学研究ⅥA	多文化児童論	講義	2	CHS701	教授(兼任)	内田 千春	
	秋	生活支援学研究ⅥB	多文化児童論	講義	2	CHS702	教授(兼任)	内田 千春	
	春	生活支援学研究ⅦA	脳科学に基づいた健康発達支援論	講義	2	CHS703	教授(兼任)	杉田 記代子	
	秋	生活支援学研究ⅦB	脳科学に基づいた健康発達支援論	講義	2	CHS704	教授(兼任)	杉田 記代子	
	春	生活支援学研究ⅧA	子どもの権利擁護システム論	講義	2	CHS705	非常勤講師	荒牧 重人	
秋	生活支援学研究ⅧB	子どもの権利擁護システム論	講義	2	CHS706	非常勤講師	荒牧 重人		
健康スポーツ学分野	春	健康スポーツ学研究ⅠA	人体構造論	講義	2	GEA701	教授(兼任)	大迫 正文	
	秋	健康スポーツ学研究ⅠB	人体構造論	講義	2	GEA702	教授(兼任)	大迫 正文	
	春	健康スポーツ学研究ⅡA	健康増進論	講義	2	AHS701	教授(兼任)	神野 宏司	
	秋	健康スポーツ学研究ⅡB	健康増進論	講義	2	AHS702	教授(兼任)	神野 宏司	
	春	健康スポーツ学研究ⅢA	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS703	教授(兼任)	齊藤 恭平	
	秋	健康スポーツ学研究ⅢB	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS704	教授(兼任)	齊藤 恭平	

研究指導

区分	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	職名	担当教員	備考
研究指導科目	春	ヒューマンライフ学研究指導		演習		REG701		吉浦(兼任)、是枝(兼任)、稲沢(兼任)、吉田(兼任)、渡辺(兼任)、内田(兼任)、杉田(兼任)、大迫(兼任)、齊藤(兼任)、神野(兼任)	
	秋	ヒューマンライフ学研究指導		演習		REG702		吉浦(兼任)、是枝(兼任)、稲沢(兼任)、吉田(兼任)、渡辺(兼任)、内田(兼任)、杉田(兼任)、大迫(兼任)、齊藤(兼任)、神野(兼任)	

注:春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

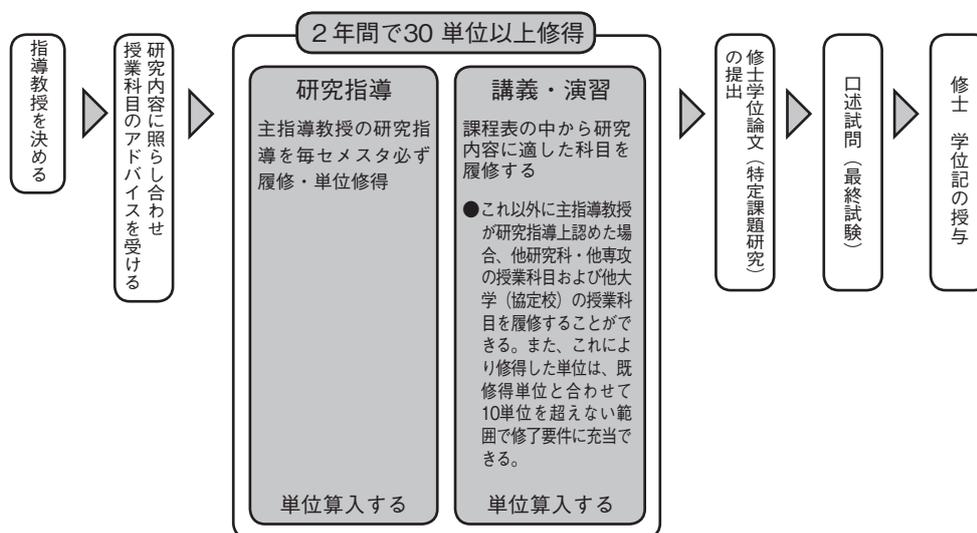
1. 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
2. 主指導教授の講義科目は、同一科目であっても各年度毎セメスタ履修すること。

履修方法

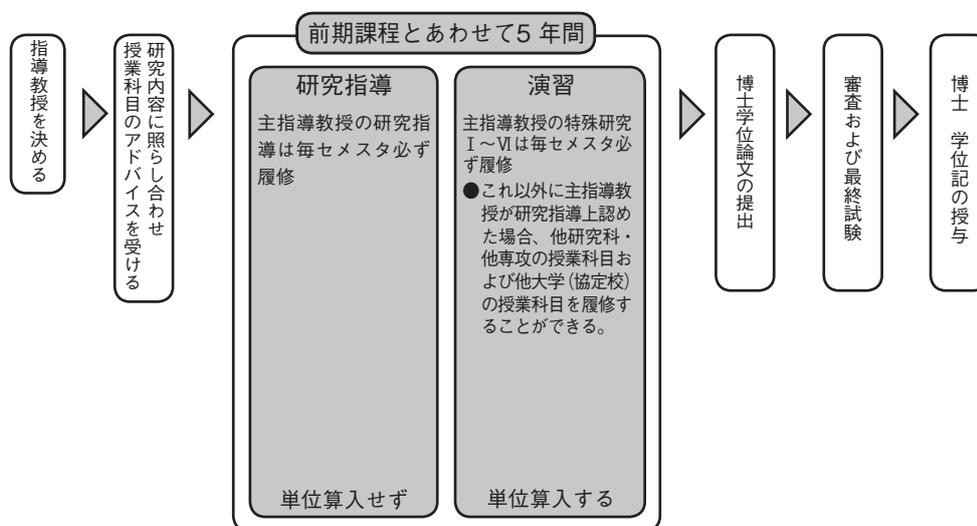
1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名（特に主指導教授から指示があった場合は、2名）とし、主指導教授および副指導教授は、「ヒューマンライフ学研究指導」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 主指導教授以外の講義は、主指導教授の指示を受けて決定すること。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

人間環境デザイン専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。
※本専攻所属学生は、2021年4月より赤羽台キャンパス(東京都北区)で修学する予定です。

人間環境デザイン専攻

博士前期課程

選択・必修の別	2019年度開講学期	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	開講年度		職名	担当教員	備考
							2019	2020			
必修	春	人間環境デザイン基礎特論	講義	2	DES601	1・2	○	○		高橋(良)、仲、水村、奥村、内田、櫻井、繁成、菅原、名取、嶺、北、柏樹、池田、齋藤	
4単位選択必修	春	建築計画特別演習A	演習	2	TPA601	1・2	○		右記教員	仲綾子、富安亮輔、齋藤博	
	春	建築計画特別演習B	演習	2	TPA602	1・2	○				
	—	建築設計特別演習A	演習	2	BSM601	1・2		○	右記教員	内田祥士、山本成一郎(非常勤講師)	本年度休講(隔年開講)
	—	建築設計特別演習B	演習	2	BSM602	1・2		○		櫻井義夫、関佳彦(非常勤講師)	本年度休講(隔年開講)
	—	建築構法特別演習	演習	2	BSM603	1・2		○	右記教員	名取 発、鈴木隆之(非常勤講師)	本年度休講(隔年開講)
	春	生活支援デザイン特別演習A	演習	2	RSW601	1・2	○			繁成 剛、菅原麻衣子	
	春	生活支援デザイン特別演習B	演習	2	RSW602	1・2	○		右記教員	高橋良至、嶺也守寛	
	—	製品デザイン特別演習A	演習	2	DES601	1・2		○		奥村和正、北真吾、柏樹良、池田千登勢	本年度休講(隔年開講)
—	製品デザイン特別演習B	演習	2	DES602	1・2		○		本年度休講(隔年開講)		
選択	秋	地域計画特論	講義	2	TPA601	1・2	○		准教授	齋藤博	
	—	建築計画特論	講義	2	TPA602	1・2		○	准教授	富安亮輔	本年度休講(隔年開講)
	—	建築設計特論	講義	2	BSM601	1・2		○	教授	内田祥士	本年度休講(隔年開講)
	春	建築意匠特論	講義	2	AHD601	1・2	○		教授	櫻井義夫	
	—	建築構法特論	講義	2	BSM602	1・2		○	准教授	名取 発	本年度休講(隔年開講)
	秋	生活支援工学特論	講義	2	RSW601	1・2	○		准教授	嶺也守寛	
	春	生活支援デザイン特論	講義	2	RSW602	1・2	○		教授	繁成 剛	
	—	メカトロニクス・デザイン特論	講義	2	RSW603	1・2		○	教授	高橋良至	本年度休講(隔年開講)
	秋	住居計画特論	講義	2	CLD601	1・2	○		教授	水村容子	
	春	製品デザイン特論	講義	2	DES602	1・2	○		教授	奥村和正	
	—	アクセシブルデザイン特論	講義	2	DES603	1・2		○	教授	池田千登勢	本年度休講(隔年開講)
	—	ヒューマンインターフェイス特論	講義	2	HII601	1・2		○	准教授	北真吾	本年度休講(隔年開講)
	—	インテリアデザイン特論	講義	2	CLD602	1・2		○	准教授	柏樹良	本年度休講(隔年開講)
	秋	生活空間計画特論	講義	2	TPA603	1・2	○		教授	菅原麻衣子	
	秋	医療福祉建築特論	講義	2	AEN601	1・2	○		准教授	仲綾子	
	春	建築環境特論(一級建築士資格対応)	講義	2	AEN602	1・2	○		非常勤講師	開原典子	集中講義
	—	コミュニケーション支援技術特論	講義	2	RSW604	1・2		○	非常勤講師	巖淵守	本年度休講(隔年開講)
	秋	認知心理学特論	講義	2	CGS601	1・2	○		非常勤講師	小林吉之	
	春	国際・産学協同特別実習ⅠA	実習	2	CIV601	1・2	○	○		本専攻全専任教員	集中講義
	秋	国際・産学協同特別実習ⅠB	実習	2	CIV602	1・2	○	○		本専攻全専任教員	集中講義
春	国際・産学協同特別実習Ⅱ	実習	2	CIV603	1・2	○	○		本専攻全専任教員	集中講義	
必修	春	人間環境デザイン学研究指導ⅠA	演習	2	REG601	1	○	○		高橋(良)、水村、奥村、内田、櫻井、繁成、菅原、池田、名取、嶺、仲、北、柏樹、富安、齋藤	1セメスタ在籍者
	秋	人間環境デザイン学研究指導ⅠB	演習	2	REG602	1	○	○			2セメスタ在籍者
	春	人間環境デザイン学研究指導ⅡA	演習	2	REG603	2	○	○			3セメスタ在籍者
	秋	人間環境デザイン学研究指導ⅡB	演習	2	REG604	2	○	○			4セメスタ在籍者

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1. 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
2. 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修・単位修得すること。
3. 共通科目「人間環境デザイン基礎特論」を履修・単位修得すること。
4. 「特別演習」から2科目を選択して履修し、4単位修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名（特に主指導教授から指示があった場合は、2名）とし、主指導教授は、「人間環境デザイン学研究指導ⅠA～ⅡB」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 同一科目を2回以上履修・単位修得することはできない。ただし、原級生および長期履修学生は、延長したセメスタ（5セメスタ以上）において、主指導教授の「人間環境デザイン学研究指導ⅡB」をその都度履修すること。なお、この場合であっても、同科目において修了要件の単位に充当するのは2単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5. 「修士論文」または「特定課題研究」の作成にあたっては、主指導教授の指導を受けなければならない。
6. 建築士試験の大学院における実務経験を認定してもらうためには、特定課題研究として「修士設計」の提出を求めることがあるので、指導教授の指示を受けること。

博士後期課程

選択・必修の別	2019年度開講学期	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	開講年度		職名	担当教員	備考
							2019	2020			
必修	春	人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ	演習	2	REG701	1	○	○			1セメスタ在籍者
	秋	人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ	演習	2	REG702	1	○	○			2セメスタ在籍者
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ	演習	2	REG703	2		○			本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ	演習	2	REG704	2		○			本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ	演習	2	REG705	3					本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ	演習	2	REG706	3					本年度休講
必修	春	人間環境デザイン学研究指導	演習		REG707～REG712	1～3	○	○		高橋良至、水村容子、奥村和正、内田祥士、櫻井義夫、繁成剛、菅原麻衣子、仲綾子、池田千登勢	各セメスタごとに履修
	秋	人間環境デザイン学研究指導	演習		REG707～REG712	1～3	○	○		高橋良至、水村容子、奥村和正、内田祥士、菅原麻衣子	各セメスタごとに履修

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1. 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
2. 「人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、主指導教授の科目を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名（特に主指導教授から指示があった場合は、2名）とし、主指導教授および副指導教授は、「人間環境デザイン学研究指導」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

■一級建築士受験資格の実務年数認定

建築・環境デザインコースの大学院博士前期課程の学生は、インターンシップ関連科目の単位取得に応じて、一級建築士受験資格の実務経験年数認定（2年または1年）を希望することが出来る。希望する場合には、入学または進級時に、その意志を指導教員に申し出、具体的な履修説明・指導を受けること。

なお、インターンシップ科目及びインターンシップ関連科目の詳細については、指導教員の指導を受け、シラバスで確認すること。

2018年12月14日に公布された「建築士法の一部を改正する法律」により、一級建築士試験の受験資格の要件となっている実務経験が、建築士免許の登録要件に改められることとなる。

この改正によって変更となる内容がある場合、別途掲示等で周知するので確認すること。

□国際・産学協同特別実習ⅠA・ⅠB・Ⅱについて

本実習は、人間環境デザイン専攻のインターンシップ科目である。ただし、建築・環境デザインコースの院生にとっては、一級建築士受験に際して、大学院在学期間の内一年間を実務経験年数として換算するためにも用いることが出来る科目として配置されている。本実習を実務経験年数として換算するために用いる場合には、あらかじめ、その旨指導教員に申し出て、必要な手続をとる必要がある。その上で、指導教員が適切と判断した一級建築士事務所に出向き、設計図書の作成等の建築設計補助業務を行う。したがって、直接の指導は出向先の有資格者（一級建築士）から受ける事になる。事前ガイダンスと事後報告計10時間とインターンシップ80時間の合計90時間で2単位とする。なお、建築設計補助業務とは下記の4つとする。

- ・実際の設計活動における設計補助作業
- ・実際の確認申請における申請業務の補助
- ・実際の工事監理における監理業務の補助
- ・設計競技或いはプロポーザル等の設計補助作業

本科目を受講した院生は単位の修得に際して、日報を提出し業務内容を指導教員に報告すること。

また、道具・機器デザイン及び製品・情報デザインの各コースにおいては、通常のインターンシップ科目として運用されるが、合計90時間で2単位であること、単位の修得に際して、日報を提出し業務内容を指導教員に報告する点は、建築・環境デザインコースの場合と同様である。

※ この科目は ToyoNet-G による履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、実習が確定次第朝霞事務課窓口に申し出て、必要書類を提出すること。

□人間環境デザイン学研究指導ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBについて

一級建築士受験資格となる実務年数認定について、実務経験年数2年を希望する学生は、インターンシップ科目を計14単位、インターンシップ関連科目を計16単位、合計30単位を取得することが必要となる。本専攻では、インターンシップ科目は「国際・産学協同特別実習ⅠA・ⅠB・Ⅱ」（計6単位）に加え、特定の指導教員による「人間環境デザイン学研究指導ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」（計8単位）を学内で実施するインターンシップ科目とすることで、必要単位数を満たすことができる。インターンシップ関連科目は、演習・実習・実験科目で8単位、講義科目で8単位を満たす必要がある。科目の詳細は、指導教員に確認すること。

なお、研究指導科目をインターンシップ科目とする際は、インターンシップ成果を含む特定課題研究を提出しなければならない。詳細は、指導教員に確認すること。